

「意欲のある人求めます。ただし60歳以上」 高齢者の積極雇用により、 地域貢献と企業利益を両立

株式会社
加藤製作所

1888年創業。従業員数105名。事業内容：家庭電気器具部品、自動車部品、騒音防止機器（防音壁、消音機）、航空機部品の製造など。2002年より高齢者雇用を推進し、地域貢献と企業利益の両立モデルとして全国から注目を集める。

■ 土日の工場稼働の担い手として、定年を迎えた高齢者を採用

岐阜県中津川市で、自動車や航空機、家電製品の部品を製造する株式会社加藤製作所。同社は「深絞り加工」といわれる加工技術を強みに、プレス板金部品の総合メーカーとして事業を開拓しています。

同社に勤める100名以上の従業員のうち、実に約半数が60歳を超える高齢のパート従業員です。そのほとんどが製造業未経験者ながら技術を習得し、若年の従業員と肩を並べて働いており、なかには70歳代・80歳代の方もいます。

高齢者採用をはじめたのは2002年。きっかけは生産率向上を目的として、土日（休日）に工場を稼働させるためでした。「土日勤務の担い手として学生アルバイトや派遣スタッフ、外国人技能実習生なども候補として検討する中で、知り合いの大学講師から『働く意欲のある高齢者は多いが働く場所がない』という話を聞きました。そこで、地元に働く意欲のある高齢の方々がいれば、ぜひ採用し、労働



代表取締役 加藤景司さん



若手社員と肩を並べて働くキャリア社員

で得られる生きがいと収入の道を提供できれば、まさに一石二鳥ではないかと考えたのです」と代表取締役の加藤景司さんは話します。

■ 生涯現役で！“キャリア社員”が職場を支える

当時すでに中津川市の人口は、約4分の1が65歳以上でした。「意欲のある方求めます、男女問わず。ただし年齢制限あり。60歳以上の方」。そんな内容を掲載した募集チラシを市内に配布したところ、大きな反響があり100名以上の応募が集まりました。

「予想以上の反響に驚いた半面、採用にはもちろん不安もありました。しかし、実際に面接でお会いしてみると、どの方も思っていた以上に“若く”、はつらつとされていました。とにかく働く意欲が高く、これならいけると、翌年以降も採用人数を増やしていました」と加藤さん。

同社では彼らを“キャリア社員”と呼んでおり、現在では土日稼働ではなく、一部の方を除き平日フルタイムで働いています。「毎日出社するのが楽しい」「働くことで友人ができた」とキャリア社員が喜びを語る一方、ともに働く若年従業員からも「真摯に働く姿勢など学ぶことが多い」「以前より職場に活気がある」など、好意的な声が多いといいます。

■ 意欲があれば、大きなプロジェクトにもチャレンジできる

同社では高い技術水準が求められる航空機部品の製造も手掛けており、近年注目を集める国産小型旅客機のプロジェクトにも関わっています。

「もちろんそこにもキャリア社員が関わっています。定年を越えて未経験からスタートした技術者が、日本の先端のものづくりの一翼を担うなんて、ドラマみたいで夢があるでしょう」と語る加藤さん。高齢者の雇用創出と企業利益の両立。未来を見据えた同社のチャレンジは続きます。

従業員の約半数が60歳以上。
そのほとんどが製造業未経験者

